

周産母子診療部

Department of Maternal and Perinatal Care

周産母子診療部長
小西 郁生



お母さんと赤ちゃんに 質の高い安心・安全な医療を提供

周産母子診療部には、母と子に安心・安全な医療を提供する産科部門、および高度な生殖医療を提供する生殖医療部門がある。産科部門では、妊娠・分娩・産褥という生理的な過程における自然の流れを重視し、伝統的な「自然分娩」を心がけながら、産科医と助産師が、陣痛開始から分娩への介助、新生児ケア、そして産後ケアと授乳への援助等、きわめて丁寧に対応する。しかし、妊娠・分娩では急変する事態も多く、これを早期発見し適切な治療を行う。重症の妊娠高血圧、胎児発育不全、分娩後多量出血などで紹介・救急搬送される妊婦さんが多く、母体と胎児の救命に全力を挙げる。生殖医療部門では、妊娠を望みながらもさまざまな原因で妊娠に至らないカップルを対象に高度な診療を行う。すなわち、卵子が発育・排卵した後に受精し、その後子宮内に着床し妊娠に至る過程を総合的にとらえ、不妊の原因を明らかにして妊娠が成立するよう適切なアドバイスと生殖医療(ART)を行う。

代表的診療対象疾患

正常妊娠・分娩、切迫流産、妊娠悪阻、胞状奇胎、異所性妊娠(子宮外妊娠)、胎児異常、頸管無力症、切迫早産、前期破水、胎児発育不全、多胎妊娠、骨盤位、高年初妊婦、前置胎盤、羊水過多・過少、内科・外科疾患合併妊娠(糖尿病、血小板減少症、SLE、甲状腺機能亢進症、肝移植後、乳がん等)や他医療機関からの紹介によるハイリスク妊娠が多い。2011年、総分娩数370例、帝王切開率40%。各々の専門診療科と連携し、新生児集中治療部(NICU)との緊密な連携のもと、厳重な周産期管理を行っている。胎児異常については遺伝子診療部およびNICUと連携してカウンセリングにあたる。

業務内容の特徴と実績

【産科部門】

産科部門では、高度の周産期医療を行う大学病院であるため、院内各科からの紹介による内科・外科疾患合併妊娠(糖尿病、血小板減少症、SLE、甲状腺機能亢進症、肝移植後、乳がん等)や他医療機関からの紹介によるハイリスク妊娠が多い。2011年、総分娩数370例、帝王切開率40%。各々の専門診療科と連携し、新生児集中治療部(NICU)との緊密な連携のもと、厳重な周産期管理を行っている。胎児異常については遺伝子診療部およびNICUと連携してカウンセリングにあたる。

とりわけ、産科救急については、各診療科の合意が得られ、病院全体での連携診療を常時可能とする「重症合併症を有する妊産婦の救急診療における基本指針」が確立され、生命の危機がせまる重症妊産婦をすべて迅速に受け入れる。この2年間に、本院到着時心肺停止の分娩後肺塞栓症1例、意識消失の脳出血1例の救命に成功した。また、分娩後2,000~10,000mlの多量出血27例に対して、新治療のバルーン留置法や放射線

科医による動脈塞栓術を行い、子宮摘出することなく止血に成功した。

子宮内バルーン留置法



【生殖医療部門】

生殖医療部門では、難治不妊例や通常の不妊治療で妊娠に至らない患者さんに、腹腔鏡下手術や顕微受精(ICSI)を含めた体外受精-胚移植(IVF-ET)などの生殖医療(ART)を行っている。2011年、65周期にIVFを施行、妊娠率17%。男性不妊に対しても当院泌尿器科と緊密に連携して治療を行う。

地域医療の取り組み

24時間体制で救急母体搬送を受け入れ

産科部門・生殖医療部門ともに、地域の病院や診療所からハイリスク妊娠や合併症妊娠、胎児異常、難治性不妊症などの紹介患者が多く、これらの地域医療機関との緊密な連携のもと、高度の医療を提供している。また救急部をはじめとする院内の各診療科との緊密な連携のもと、24時間体制で救急母体搬送を積極的に受け入れており、京都府の周産期救急システムにおける母体重症疾患対応の基幹病院として大きな役割を果たしている。

救急母体搬送受け入れ数

